

南信州広域連合第8回広域連合会議 結果報告

日時：令和元年11月15日(金) 16:05～16:48

場所：県飯田合同庁舎301号会議室

【出席者】14市町村長（平谷村及び泰阜村副村長代理出席）

〔南信州地域振興局〕土屋局長

〔飯田建設事務所〕松橋次長

〔飯田保健福祉事務所〕松岡所長

〔飯田広域消防〕赤羽目消防長・有賀消防次長兼総務課長

〔飯田環境センター〕北原事務長

〔事務局〕高田事務局長・松江事務局次長・加藤次長補佐兼庶務係長

櫻井次長補佐兼広域振興係長・秋山介護保険係長・宇佐美庶務係主事

1 開会…16:05

2 広域連合長あいさつ

3 協議・報告事項

(1) 令和元年南信州広域連合議会第2回定例会について（資料No.1）【説明者：松江事務局次長】

開催日は令和元年11月29日（金）、付議事件は6件で報告案件1件、条例案件1件、決算案件4件。告示は11月6日（水）同日議会運営委員会、一般質問通告締め切りは昨日の午後5時、通告なし。定例会終了後に全員協議会開催。

付議する議案について

- ・専決処分報告について（損害賠償の額を定めることについて）、7月25日の救急活動中に建物の通路手摺を破損したことによる損害を賠償するもの。
- ・南信州広域連合に係る市町村の条例を準用する条例の一部を改正する条例の制定について、新たに創設される会計年度任用職員制度に関し飯田市の条例を準用するもの。
- ・平成30年度南信州広域連合各会計歳入歳出決算認定について、一般会計、南信州広域振興基金特別会計、飯田広域消防特別会計、稲葉クリーンセンター特別会計。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(2) リニア時代に向けた新施設の整備に関する検討について（資料No.2）【説明者：松江事務局次長】

6月から検討委員会の会議を重ね、今回で4回目（最後）。

今回の会議は、立地条件の検討、利用形態、施設規模の議論のまとめ、広域連合会議への提案内容について議論をした。

第4回までの議論の内容については、広域連合に提出する提案書として正副委員長がまとめ、今年中に提案予定。

第4回の会議で協議された内容、意見は次のとおり。

- ・立地条件の検討については、外からの利用ということを考える、あるいはリニア駅、エス・バードとの有機的な影響を考えるとリニア駅近くに設置するのが良いのではないかと。候補地をどこかに絞るというよりは条件を示した方が良い。
- ・複合的な機能を考えた場合には、その土地の拡張性を考慮すべき。

・整備の時期については、リニアが開通してから見極めてという意見がある一方、リニアが開通してからでは誘致合戦が始まってしまうので早い方が良い。

・利用形態、施設規模については、民設民営ということをギリギリまで探してほしい。

・こうした施設の整備は地域の盛り上げが大切。プロチームの誘致を地元でやるなど。

今回は6名の学生にも参加していただいたが、この場で意見を言うのが難しく、学生だけで議論できる場があった方が良かったとの意見も頂戴した。今後の参考としたい。

→ 説明内容確認、質疑なし。

(3) 南信州地域の高校の将来像を考える協議会の検討状況について（資料No.3）

【説明者：加藤次長補佐兼庶務係長】

協議会設置の目的は、県が示している高校改革の実施方針に基づき、それに対する各地域の意見を取りまとめるもの。

委員は16名、市町村長、各関連団体で構成。事務局は5名で県教委と広域連合。

協議会の検討項目は当地域に示されている内容で、定時制を単位制へ移行する等、多部制・単位制の機能を補完する仕組みを検討していくことが考えられるという意見と、今後の少子化の進行の中で、この地域の学校規模の縮小を見据えた地域全体の高校の将来像について検討を進め、地域の合意形成を図っていく必要があるという意見について検討していく。

この中には、前回当地域であったような高校の統合、再編はない。

*これまで4回開催した会議による議論のまとめについて

多部制や単位制といった仕組みがあれば、今まで全日制と定時制しかなかった選択肢が更に広がり、生徒の幅広いニーズに応えることができるなど、制度としては良い制度という意見が大勢である。

それを当地域にどう取り入れていくかを検討したところ、新たな多部制・単位制高校を設置することや、現在設置されている高校を多部制・単位制に転換していくことは困難であり、既存の定時制を活かしながら、そこに多部制・単位制の機能を補完していく方向性が妥当という意見があった。

学校側でもそういった検討を進めてきているという話もあり、当協議会と検討の方向性は同じで、飯田OIDE長姫高等学校の定時制に多部制・単位制の機能を補完していくという意見があり、こういった議論になっている。

*今後の当地域の高校の将来像の検討について

今回の再編計画というのは、令和11年度末までの10年間で、当地域では高校の統合・再編は想定されていないが、その後の高校の在り方を今から検討していくことが重要ではないかということで、色々な意見を出していただいている。

生徒目線の意見

- ・高校進学という子どもたちを取り巻く環境が変わる時期に色々な選択肢があるとよい。
- ・独自の教科を設定するなど、カリキュラムの多様化ができるとうい。
- ・生徒のやりたいことを尊重して学校方針に反映させる。
- ・通常の高校教育カリキュラムでは物足りない生徒のため、個々の卓越性を伸ばしたり専門分野に重点化できる通信制課程等を充実させる。
- ・カリキュラムの中にスポーツや音楽などを取り入れる。

地域目線の意見

- ・探究的な学びや地域との連携につながるような教育の実現を目指す。
- ・全国から子どもたちを集めるような高校魅力化計画というものを検討していく。
- ・他人と直に関わって協調性やコミュニケーション能力が養われる学校。
- ・カリキュラムの中に「この地域でしか学べないもの」を取り入れ、飯田下伊那のエキスパートを育てる。
- ・今後の生徒数の減少予測を見ると地域全体での検討が必要であり、県立高校だけではなく、私立も含めた圏域内8高校が一緒に取り組んでいくことが重要。

- ・小中学校でのふるさと学習が高校教育にもつながっていくよう、中一中、中一高、高一高の連携を強めていく必要がある。
- ・不登校対策については、定時制だけでなく通信制のほか高校全体の仕組みの中で検討していくことが重要。

*今後の日程について

日程は決まっていないが住民説明会を開催予定。

その後、第5回協議会を行い意見集約して意見書の検討に入っていく。

年内には意見書の形に整理し、年明け早々には県教委に意見書として提出していきたい。

(主な意見等)

阿智村：以前の資料で数字も出ていたが、今から10年後には高校生が500人減る。1つの学校がなくなる人数。真剣に考えなければいけない。

スポーツなどで地元から出て県内外の高校にどんどん行ってしまう。私立高校の経営はもちろん大事だが、私立高校も含んでこういったことの検討に取り組んでいくことが非常に大事。

多部制・単位制など色々あり、飯田OIDE長姫高校には定時制があるので中心になると思うが、スポーツ、音楽、伝統文化などもっと色々なことを学べる科があるとよい。例えば飯山高校はスポーツ科があり、県内外にもアピールできている。

このように様々な魅力がある高校になれば管内だけではなく、全国から学生が入ってくるのではないかと。

本当に簡単な問題ではないので、真剣にこの10年後のことを考えていかなくてはならないと思う。

(4) 「南信州民俗芸能パートナー企業制度」新規協定締結について (資料No.4)

【説明者：櫻井次長補佐兼広域振興係長】

「南信州民俗芸能パートナー企業制度」の趣旨に賛同いただいた11社と新たに協定を締結したいとするもの。

協定内容は今までと同様で、従業員の民俗芸能への参加推奨、休暇取得の推進等。株式会社南信州観光公社には、観光側面から民俗芸能の保存継承に貢献するというものも協定内容に含んでいる。

協定締結・登録証交付式は、11月28日(木)午後3時からで現在調整中。

→ 説明内容確認、承認。

(5) 飯田広域消防から (資料No.5) 【説明者：有賀消防次長兼総務課長】

11月10日現在の火災発生状況について、10月は10件、11月に入って3件の火災が発生している。前年比は25件の増。

原因は様々で、たばこ、こんろ、煙突、不審火、ガス缶、スプレー缶など。11月に火災による死者1名発生し今年の死者は5名。

本日まで火災予防運動を実施しているが、12月からは年末警戒に入る。各市町村の消防団とも連携し広報活動を行っていく。

→ 説明内容確認、質疑なし。

4 長野県

(1) 南信州地域振興局

* 「南信州民俗芸能パートナー企業制度」について

地域振興局としても5か年の地域計画にパートナー企業の数値目標を掲げており、目標数値を超えている状況。今後も数を増やしていくが、数だけではなく、しっかりと活動をしていただけるように支援を受ける側と、支援をする企業側とをマッチングしていきたい。

一部の霜月まつりが中止というような報道もされ大変残念だが、何とか継承していけるように私どもも真剣に考えていくので、市町村にもよろしくお願ひしたい。

*台風19号の災害復旧のためのボランティアについて

県では、ボランティアや義援金について呼び掛けをさせていただいている。

ボランティアについては大勢の方に参加をいただいているが、発災から1か月経過し被災地によってはボランティア活動を終了しているところもあるが、まだまだ必要としているところがある。

飯田市と阿南町では社協でボランティアバスパックというものを始めている。こうした取り組みが様々な地域に広がることを期待している。

引き続き、各市町村においても住民に対する呼びかけをお願ひしたい。

*飯田線フォトコンテストについて

JR飯田線沿線の新たなフォトスポットを見つけて、魅力を発信していこうというもの。

上伊那地域振興局との共同事業、対象エリアは中井侍駅から辰野駅までの区間で、インスタグラムを使用して投稿するもの。

飯田線の活性化、主に観光振興への活用については、三遠南信地域の各県現地機関との意見交換を行った際に、今後3県が連携して取り組んでいくこととなった。具体的な取り組みについては3県の若手職員でプロジェクトチームを作り今後の検討をしていくということで合意した。

(主な意見等)

阿智村： パートナー企業について、東京などの企業もパートナー企業になれるのか。企業にメリットがあっても良いのでは。大学、研究所等との連携も良いのでは。

土屋局長： 私どもも同様の考え方を持っている。現在検討をしているところ。

まだパートナー企業は全県に広がっていない。そもそもこのパートナー企業制度は地元地域が一丸となって、保存継承に取り組むというものだったが、当初とは違った協力の取り付け方については検討させていただいている。大学などとの連携については、國學院大學と連携して取り組みを行っている。

(2) 飯田建設事務所

→ 報告事項なし

(3) 飯田保健福祉事務所

保健所の業務として病院への立入検査を行っている。

今までは地震を想定したマニュアルや訓練があったが、この4、5年では水害に対するマニュアルや訓練も必要になってきている。

病院では、火災、地震、感染症対策はしていきっているが、水害に関してはかなり弱く感じる。

水害に関しても、しっかり考えて準備していただきたいと感じた。

5 当面の日程について

11月17日(日) 三遠南信自動車道飯橋道路(天竜峡IC~龍江IC) 開通式 9:15

11月28日(木) 民俗芸能パートナー企業制度新規協定締結・登録式(消費生活C) 15:00

11月29日(金) 広域連合議会第2回定例会、全員協議会(広域消防本部3階) 10:00

12月17日(火) 広域連合会議

6 閉会…16:48